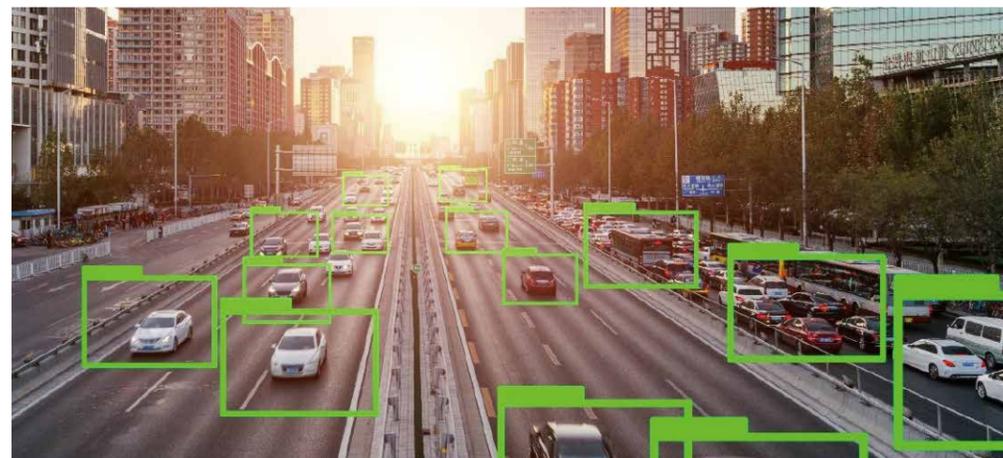




When you need to be sure



SGS Automotive Service

SGSジャパン株式会社
自動車業界向けサービスご案内

SGS

When you need to be sure

SGS

When you need to be sure

We are SGS



Our Vision

We aim to be the most competitive and the most productive service organisation in the world. Our core competencies in inspection, verification, testing and certification are being continuously improved to be best-in-class. They are at the heart of what we are. Our chosen markets are and will be determined by our ability to be the most competitive and to consistently deliver unequalled service to our customers.

私たちは、世界で最も競争力のある生産性の高いサービスを提供できる企業であることを目指します。検査、検証、試験および認証分野における私たちの競争力は常に進歩・向上を続け、業界における最高レベルを保ち続けます。それは、私たちが私たちであり続けるための核心なのです。私たちは、私たち自身が最も競争力を発揮できる市場において、世界中のお客様に比類なきサービスを提供し続けます。

Our Values

We seek to be characterised by our passion, integrity, entrepreneurialism and our innovative spirit, as we continually strive to fulfill our vision. These values guide us in all that we do and are the bedrock upon which our organisation is built.

私たちは、熱意、誠実さ、起業家精神と革新性を追い求める心を忘れずに、OUR VISIONを追求し続け、それによって認められることを目指します。これらのVALUESは、私たちのすべての行動の指針であり、また、私たちの企業組織が成り立つ強固な土台でもあるのです。

会社概要

社名	SGSジャパン株式会社
英文社名	SGS Japan Inc.
設立	1987年（昭和62年）6月23日
本社所在地	神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134番地 横浜ビジネスパークノーススクエア1
資本金	1億円
代表者	代表取締役 顔 立新
事業内容	各種検査、検証、試験、認証業務 認証業務 監査、審査、審査登録業務 試験、検査、検量、査定、測定業務 調査、分析業務 鑑定、評価業務 適合判定、適合証明業務 トレーサビリティ業務 テクニカルソリューション業務 労働派遣事業 有料職業紹介事業 教育訓練業務 海外経済協力・援助プロジェクト・開発融資に関する一連の業務、監理業務 前各号に係る代理店業務 前各号に付帯する一切の業務 (2025年4月現在)

会社沿革

私たちSGSが産声を上げたのは、1878年のこと。以降、今日に至るまで、民間検査、検証、試験、認証サービスのリーディングカンパニーとして、ビジネスを展開してまいりました。

1878	SGS (Société Générale de Surveillance・ソシエテ・ジェネラル・ド・サーベイランス)として、フランス国ルーアンに設立。東ヨーロッパ各国からの穀物の輸出入監督サービスに従事。	1999	株式会社エスジーエスを、株式会社エスジーエス・アイシーエス・ジャパンと名称変更。主にISO関係のマネジメントシステム審査登録業務に従事。
1915	SGS本社機能をスイス国ジュネーブに移転。	2002	SGSFE 日本支店の業務の一部を、株式会社エスジーエス・アイシーエス・ジャパンに移管。
1922	日本拠点の前身であるファー・イースト・スーパーインテンデンス・コムパニー (FESCO) が神戸支店を開設。農産物・鉱産物を主体とした検査業務に従事。	2003	株式会社エスジーエス・アイシーエス・ジャパンを、SGSジャパン株式会社と名称変更。横浜市西区の横浜ランドマークタワーに本社移転。
1938	FESCOがSGSグループの傘下に入り、スイス国商法にも基づき払込資本金5万スイスフランにて設立。同年、日本支店はスイス法人として新たに営業開始。	2004	横浜ビジネスパークに、環境負荷物質を中心とした化学物質の分析を行うグリーンテストセンター(現ケミカルラボラトリー)を設立。
1967	港湾運送事業に関して、民間企業としても外資系企業としても最初に、鑑定事業・検量事業の免許を日本国運輸省(当時)から取得。	2013	エス・ジー・エス・ファーイースト・リミテッド日本支店を閉鎖。
1978	FESCO 日本支店をエス・ジー・エス・ファーイースト・リミテッド日本支店 (SGSFE) と名称変更。	2014	株式会社アールエフ・テクノロジーをグループ会社化しSGSアールエフ・テクノロジー株式会社と改称。
1987	SGSグループによる100%出資にて、日本法人 株式会社エスジーエスを設立。	2015	横浜市保土ヶ谷区の横浜ビジネスパークに本社移転。
		2018	SGSアールエフ・テクノロジー株式会社を吸収合併。

When you need to be sure

SGSは、検査・検証・試験・認証におけるリーディングカンパニーです

私たちは、競争力の強化、持続可能性の推進、信頼性の提供により、お客様のビジネスの発展をサポートする革新的なサービスとソリューションを提供しています。

SGSは、サステナビリティ、品質及び高潔性のグローバルベンチマークとして高い評価を受けています。

私たちのブランドプロミスである when you need to be sure は、私たちが提供するサービスに対する信頼、誠実さ、確実性に対するコミットメントを強調するものです。

No. 1 WORLD LEADER

約140年の歴史を持つSGSは、検査・検証・試験・認証の4つの分野におけるリーディングカンパニーとして世界最大級の規模と実績を誇っています。

99,500 EMPLOYEES

99,500名を超えるスタッフが115か国以上の国・地域で活躍しています。

2,500 OFFICE AND LABORATORIES

2,500か所を超えるオフィス、ラボがグローバルネットワークでつながっています。このグローバルネットワークを駆使することで、お客様にさまざまなサービスを提供できます。

GLOBAL SERVICE, LOCAL EXPERTISE

各国の専門家が世界品質のサービスを提供しています。
さらに、グループ内で情報共有を行うことにより、迅速かつ柔軟な対応も可能です。



SGSは、世界中の自動車業界の皆様の発展を支援します

変革の著しい自動車業界において、第三者の立場からの試験や認証の重要性が増加しています。一方で、世界におけるこの業界で活躍するためには、世界中の規制や法規に対応し、それぞれの市場で優位に立つ必要があります。

私たちは、自動車業界の皆様の発展を支援します。

SGSでは、自動車業界の各社に対し、さまざまな分野における試験・認証・分析・調査・コンサルティングに関する数多くのサービスを提供しています。

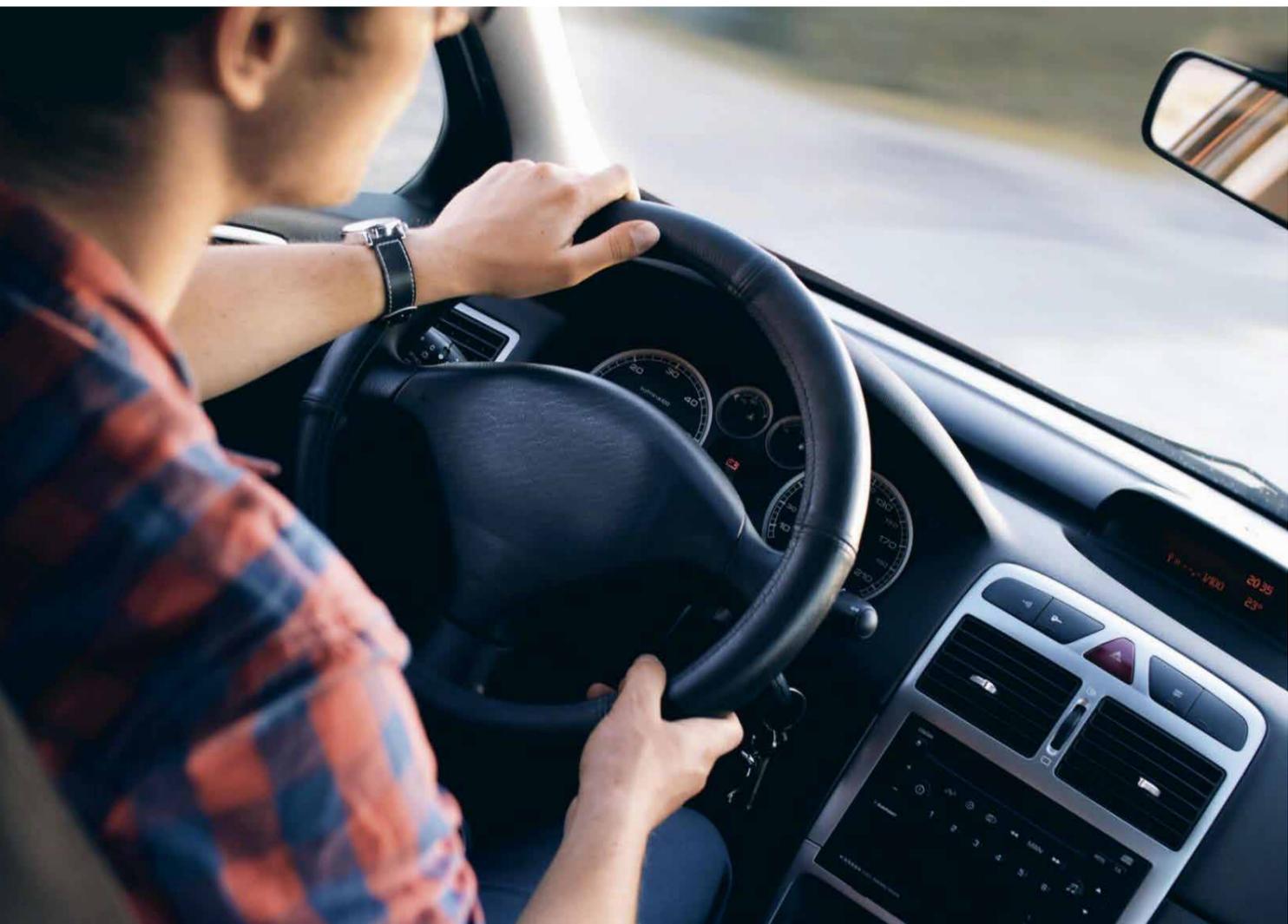
国内/国外の自動車メーカー、サプライヤー、材料メーカー等に対する豊富な実績があり、プロジェクト適用経験に富んだエンジニアが多数在籍しています。

SGSは専門性の高い5つの分野におけるお客さまのビジネスの継続的な成長をサポートします。

Certification
AI

SAFETY/SECURITY

Auto EMC
Sustainability



Certification

認証はビジネスライセンス



IATF16949：自動車向け品質マネジメントシステム認証

IATF16949とは、自動車メーカーに車載品を納入するまでのサプライチェーンにおける生産事業所組織が認証取得できる、品質マネジメントシステム規格です。この規格では、特に重要とされるコアツールを理解・駆使し、品質マネジメントシステムを構築・運用することが求められています。

多くの海外メーカーはIATF16949認証登録を取引条件としていますが、SGSの認証は高いブランド力により、世界中で評価されています。これに加え、SGSは世界中に審査拠点を持ち、グローバルで審査が可能であるほか、海外拠点を含むコーポレートスキーム認証審査（マルチサイトの認証審査）が可能です。

TISAX：自動車向け情報セキュリティアセスメント

TISAX®は、ドイツ自動車工業会（VDA）が開発した情報セキュリティアセスメント（ISA）-ISO/IEC 27001に関する要求事項のカタログをベースにした、参加企業の情報セキュリティに関する評価・交換のしくみで、参加企業間で評価結果を確認交換することができます。ENX協会はTISAX®のガバナンス組織として、TISAX®のさらなる開発、TISAX®審査プロバイダの監視、審査実施、品質保証を担っています。TISAX®のアセスメントスキームは、自動車メーカー、サービスプロバイダ、サプライヤー間で情報セキュリティに関する統一のレベルを保証するものです。製造プロセスにおける完全性と可用性を確保することで、データの保護に貢献します。専用のオンラインプラットフォームにより、情報セキュリティアセスメント結果を交換することができます。SGSでは、TISAX®のアセスメントサービスを提供しています。

ISOマネジメントシステム (ISO14001、ISO45001など)

SGSはさまざまな分野において、ISOをはじめとする国際規格や国内法規制・規格についての認証審査・監査、トレーニングサービスを提供しています。これらの組織の状況および関連したリスクおよび機会に取り組むことにより、ピ

ジネスリスクを適切に管理することができるほか、継続的改善を図ることが期待できます。

提供サービス例

- ISO 9001 品質マネジメントシステム
- ISO 14001 環境マネジメントシステム
- ISO 45001 労働安全衛生マネジメントシステム
- ISO/IEC 27001 情報セキュリティマネジメントシステム

SGSは、世界最大級の認証機関です。グローバルネットワークを活用し、日本国内のみならず、グローバル認証や複数規格の複合審査にも対応可能です。

世界200か国電波認証取得、試験・申請代行

世界の国々の行政機関は電波法に関する独自の認証制度を運用しています。電波を意図的に発射し通信やセンシングを行う製品を各国に上市する場合に認証が必要になる場合があります。電波利用機器の仕向先毎に必要な対応について、提案～取得までをサポートします。

さらに、SGSは各国の当局より承認・登録を受けており、日本、北米TCB、欧州NB、台湾NCCの認証を直接発行可能です。また、その他の国に関しても申請取得までを代行対応することができます。これにより、製品が各国の市場に出るための必要な認証を取得できます。



車載無線試験（ミリ波、UWB、SRD、セルラー等）

SGSは自社の試験所で、車載機器のEMC試験・対策サービスを提供します。駆動系の高圧DC入力機器から制御系DC12V機器まで、幅広く試験可能です。EMC対策が必要な場合、対策に精通したエンジニアが、その場で対策を実施します（EV駆動インバータ、ADAS等）。また、他の認証業務（機能安全、無線認証：ミリ波レーダー/GSM/WCDMA/LTE/5G NR/Wi-Fi/Bluetooth等）とのワンストップサービスを提供することができます。

業界認証（Wi-Fi Alliance、Bluetooth SIG、GCF/PTCRB）

SGSは、総務大臣に登録を受けた登録証明機関として日本国内の電波法に基づいた、技術基準適合証明、工事設計認証サービスを提供します。併せて、各国の電波法に基づく、米国FCC認証、欧州のCEマーキング自己宣言サポート、世界各国認証サービスを提供します。

これら電波法認証に加え、電気通信事業法認証、Wi-Fiロゴ認証、GCF認証、PTCRB認証サービスも提供し、お客様のニーズに合わせた幅広い無線機のワンストップサービスを提供します。

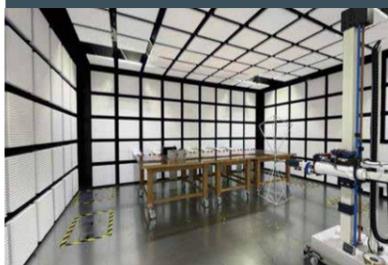
主な特定無線設備

- 2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムの無線LAN、Bluetooth、UWB、TPMS など
- 特定小電力機器：テレメータ、テレコントロール、RFID など
- ミリ波（ミリ波データ通信・ミリ波レーダなど）：24GHz帯、60GHz帯、76GHz帯、79GHz帯など

- 携帯電話移動局・衛星通信地球局など
- 携帯電話基地局・構内無線・920MHz帯簡易無線局など

Auto EMC

次世代モビリティを支える EMCソリューション



EV駆動系機器のEMC試験

EV駆動系機器（eアクスル、DC/DCコンバータ、OBC、Liバッテリーなど）は、高電圧・大電流を扱うため、従来機器に比べEMC上の課題が多く発生します。SGSではDC高圧電源やDC高圧LISNを備え、大型機器にも対応可能な試験環境を整えており、開発段階から量産前検証まで幅広いEMC試験を提供しています。また、規格要求を満たせない機器に対しては、豊富な知見に基づくEMI/EMS対策支援も実施し、製品の早期立ち上げをサポートします。

EMC設計のフロントローディング～試作・量産機への対策支援

近年、車載機器はDC12V系の低圧からDC800V系の高圧まで多様化しており、EMC（電磁両立性）設計の重要性がますます高まっています。SGSでは、車載機器に精通したエンジニアが、回路・機構設計段階からEMCを意識した設計支援を行い、低ノイズ基板設計や部品選定まで幅広く対応します。開発初期にEMC設計を取り入れるフロントローディングにより、後工程でのトラブルを防ぎ、開発効率と製品品質の大幅な向上、開発コストの削減を実現します。さらに、試作機や量産機におけるEMC対策も、自社の試験所での対応に加え、エンジニアの現地出張によるサポートも可能です。

EMC 試験規格への対応 EMI:CISPR 25/EMS:ISO 11452-2/3/4/8/9、ISO 7637-2/3

SGSでは、CISPR 25、ISO 11452-2/3/4/8/9、ISO 7637-2/3といった国際的EMC試験規格に対応したサービスを提供しています。これらの規格は、自動車部品の電磁両立性を確保し、製品の品質・信頼性向上に欠かせないものです。

試験所はJAB認定を取得しており、さらにVCAおよびTÜV SAARからEマーク認証試験の認定も受けています。国内外自動車メーカーの規格に対応する試験機材も完備しており、OEM要求にもスムーズに対応可能です。

EMC試験・認証パートナーとして、開発から量産に至るまで、お客様の製品化を強力にサポートします。

AI

知能システムの未来に、規格と評価を



AIマネジメントシステム (ISO/IEC 42001)

ISO/IEC 42001は、AIの台頭とそれに伴う課題に対応するために発行された、AIマネジメントシステム（AIMS）の国際規格です。この国際規格は、AIMSを確立し、実施し、維持し、継続的に改善するための要求事項を規定しており、その目的は、組織および社会がAIの恩恵を最大限に受けられるようにすると同時に、利害関係者に安心を与えることです。

SGSは、国内外でISO/IEC42001の認証実績を有しています。

AIマネジメントシステムの指針仕様 (ISO/PAS 8800:2024)

ISO/PAS 8800:2024は、道路車両に搭載されるAI技術の安全性と信頼性を確保するために策定された新しい国際規格です。電気/電子システムに組み込まれたAIに加え、車両外部のAI要素との相互作用までを対象とし、出力不足やエラーによるリスク低減を目指します。自動運転や運転支援システムの普及を背景に、AIの安全性に関する要求は急速に高まっており、ISO/PAS 8800:2024への対応は今後の市場競争力を左右する重要な要素となります。

SGSでは、教育・トレーニングからプロセス構築、プロジェクト適用に至るまで、ISO/PAS 8800:2024に準拠した総合的なサポートサービスを提供しています。AI技術の安全・安心な活用に向け、専門知識と実績に基づいた支援を提供します。

AIシステムのリスク評価技術 レポート (ISO/IEC TR 5469)

AI技術の急速な普及に伴い、安全関連システムにおけるAI活用が進んでいます。しかし、従来の開発手法では対応しきれない新たなリスク管理が求められています。これを受け、2024年に発行された「ISO/IEC TR 5469」は、AIシステムに特有のリスクに対応するための設計・開発・検証方法をまとめた技術指針を示しています。

特に、AIのブラックボックス性に起因するリスクに対し、透明性、説明性、ロバスト性を確保する検証プロセスの重要性が強調されています。今後、AI活用が広がる中で、こうしたリスク管理への取り組みは、市場での信頼確保や法規制対応の鍵となるでしょう。

SGSでは、ISO/IEC TR 5469に基づく教育支援、プロセス構築、プロジェクト適用支援など、幅広いサービスを提供しています。AIシステムの安全性確保に向けた取り組みの推進のサポートを行います。

自動車向けソフトウェア プロセス評価モデル (A-SPICE 4.0 MLE)

自動車業界では近年、AI技術やデータ駆動型開発の重要性が急速に高まっており、それに対応する形でA-SPICE 4.0 MLE (Machine Learning Engineering) が登場しました。本モデルは、機械学習を取り入れたソフトウェアおよびシステム開発の品質向上を目的とし、MLE.1からMLE.4までの4プロセスを通じて、AI要件定義、データ管理、モデル開発、検証プロセスを体系化しています。

自動運転やADASの普及に伴い、開発プロセスの高度化と信頼性確保は避けて通れず、A-SPICE 4.0 MLEへの対応は今後ますます求められるでしょう。とりわけ欧州市場を中心に、MLE適合が新たな受注要件となる動きも始まっています。

SGSでは、教育（トレーニング）、プロセス構築支援、プロジェクト適用支援など、A-SPICE 4.0 MLEに特化した幅広いサービスを提供しています。豊富な実

績に基づき、お客様のAI・データ駆動型開発の品質向上と市場競争力強化を力強くサポートします。

SAFETY/SECURITY

クルマの未来を守る、安全と安心のトータルソリューション



機能安全/サイバーセキュリティ

自動車開発プロセスにおいて必要不可欠な規格に対し、トレーニングから、テクニカルソリューション、監査、アセスメント、認証のサービスをワンストップで提供します。規格に沿った開発に準拠していく中でFMEAやFMEDA、TARAなどさまざまな手法を取り入れる必要がありますが、これらの手法にもピンポイントでテクニカルソリューションの提供が可能です。SGSでは開発経験豊富なエキスパートがお客様への支援をしており、規格への適用を密にサポートします。また、TUEV Saarがグループ会社であることからTUEV認証の日本語での実施が可能であるなど、SGSだけの付加価値サービスを提供します。

<対象規格>

- 自動車機能安全「ISO 26262」
- 自動車サイバーセキュリティ「ISO/SAE 21434」
- 自動車ソフトウェアアップデート「ISO 24089」
- 意図した機能の安全性：SOTIF「ISO 21448」
- ソフトウェアプロセス「Automotive-SPICE」



Sustainability

持続可能な未来へ、信頼を可視化



GHG検証、環境・社会性データ検証

SGSでは、GHG排出量の報告に関する義務のおよび自主的なニーズの高まりに合わせ、GHG排出量のみならず、環境データ（廃棄物、水など）、社会性データの検証サービスを提供しています。SGSは、報告された各データについて、完全性、一貫性、透明性、正確性があることを、妥当性確認審査または検証を通して意見表明し、保証します。

検証基準は ISO14064-3、AA1000、ISAE3000、ISAE3410、ISAA5000 など、お客様のニーズに合わせて対応しています。

EUバッテリー規則、LCA規制

欧州では自動車分野における環境規制が強化されており、LCA（ライフサイクルアセスメント）規制、EUバッテリー規則（Regulation (EU) No 2023/1542）、およびELV（使用済み車両）指令の改正動向が注目されています。LCA規制はエコデザイン規則やバッテリー規則に組み込まれ、製品のライフサイクル全体にわたるCO₂排出量や環境影響の算定・開示として今後義務化される予定です。特にEUバッテリー規則には2023年に採択され、従来のバッテリー指令の要件に加えて、製品設計、原材料の責任ある

調達、CO₂排出情報開示、リサイクル目標、デューデリジェンス義務などを企業に課しており、一部項目についてはNotified Body (NB) による第三者認証が要求されています。

- デューデリジェンス (DD) 義務の実行体制構築に係るアドバイザー
- カーボンフットプリント (CFP) 検証およびLCA算定支援
- 製品含有化学物質分析 (Cd, Pb, Hg/ REACH Annex XVII 他)
- 安全性・信頼性試験 等

ELV規制

現在議論されているELV規則案では、自動車に使用される金属類やプラスチックなど再生材の使用義務化（段階的引き上げ）、部品単位での再利用やリサイクル率の報告、サプライチェーンにおけるトレーサビリティの強化、さらに、LCA視点での環境情報開示や、回収・再資源化の実効性を担保するための第三者監査やISO 22095で規定されているCoC (Chain of Custody) 導入も検討されています。

またリサイクルプラスチックの使用については、バージン材とは異なり、含有する化学物質の把握は難しく、規制化学物質や自動車業界の管理対象物質 (IMDS・GADSL収載物質等) の含有状況を全て確認することは非常に困難な為、SGSでは自動車部品に使用されるリサイクルプラスチックに含有する化学物質の検査も支援しています。

- 再生材のCoC検証 (ISCC、RCS/GRS、ASIなど)
- GADSLスクリーニング分析
- REACH SVHCスクリーニング分析/Annex XVIIの定量分析
- POPs条約対象物質の定量分析
- 化審法第一種特定化学物質の定量分析
- PFAS多項目定量分析

燃料・潤滑油回収分析、調査

世界中のあらゆる場所から燃料や潤滑油を回収し、SGSの試験所で分析を行います。特に燃料は、従来型石油系燃料のほか、近年はバイオ燃料や合成燃料などの代替燃料が市場に登場していますが、SGSはあらゆる燃料に対応しています。世界中のディーラーやガソリンスタンドなど、あらゆる場所からピンポイントで回収の指定を行うことができ、市場調査、品質問題対応など、さまざまな用途にご利用いただくことができます。

燃料・エネルギー将来動向調査 SGS INSPIRE

世界的な脱炭素の流れを受けて、世界の燃料・エネルギー業界にさまざまな動きが見られ、さらに短期間の間に大きくトレンドが変化しています。しかしながら、中長期的な戦略のためには、この動向を理解することが不可欠です。

SGS INSPIREは、こうした課題を解決するための、燃料・エネルギー分野に特化した情報支援サービスです。独自のネットワークと専門的知見を駆使した情報を分析し、代替燃料や次世代燃料の動向、今後の排ガス規制の行方、電動化規制の未来など、自動車業界が必要とするさまざまな情報をお届けします。

脱炭素社会という新たな潮流の中で、確かな未来を築くために、SGS INSPIREをご活用ください。



CONNECT WITH SGS

SGS is the world's leading Testing, Inspection and Certification company. We operate a network of over 2,500 laboratories and business facilities across 115 countries, supported by a team of 99,500 dedicated professionals. With over 145 years of service excellence, we combine the precision and accuracy that define Swiss companies to help organizations achieve the highest standards of quality, compliance and sustainability.

Our brand promise – when you need to be sure – underscores our commitment to trust, integrity and reliability, enabling businesses to thrive with confidence. We proudly deliver our expert services through the SGS name and trusted specialized brands, including Brightsight, Bluesign, Maine Pointe and Nutrasource.

SGS is publicly traded on the SIX Swiss Exchange under the ticker symbol SGSN (ISIN CH0002497458, Reuters SGSN.S, Bloomberg SGSN:SW).

SGSジャパン株式会社

横浜本社・オフィス

〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134
横浜ビジネスパーク ノーススクエア I

ケミカルラボラトリー

〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134
横浜ビジネスパーク イースト 12F

製品安全ラボラトリー

〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134
横浜ビジネスパーク ノーススクエア I 1F

北山田試験所

〒224-0021 神奈川県横浜市都筑区北山田3-5-23

大阪事務所

〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町3-5-12
御堂筋本町アーバンビル8F

名古屋事務所

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3-6-35
CBCアネックス栄 3F

福岡事務所

〒812-0027 福岡県福岡市博多区下川端町3-1
リバレインオフィス10F

各種サービスの詳細や連絡先については、ポータルサイトをご覧ください

[SGSJAPAN-PORTAL.JP](https://www.sgs-japan.com/portal)

